

(第3種郵便物認可)

大阪市北区の市立豊崎小学校(全校児童154人)の児童が、創立100周年を記念して人気絵本作家の田島征彦さんとともに絵本を制作した。田島さんは「素晴らしい作品に仕上がった」と言い、同校は「長く読み親しんでほしい」としている。



模造紙に絵を描く児童ら(大阪市立豊崎小学校提供)

児童と作家 絵本共作

菅原道真の怒り 笑顔で静める

豊崎小は、1915年に豊崎第三尋常小として創立した。田島さんは、同校が12年前から授業に取り入れている能楽の演目をもとにストーリーを考えようと提案。太宰府に左遷された菅原道真が死後、雷になってたりをもち、たたりをもちたらしめたという「雷電」を紹介し、「恨みがいっぱいになった道真の心を静めるにはどうすればいいか」と児童たちに問いかけ、あらゆることを考えた。

大阪・豊崎小 100周年記念

児童らは、雷になった道真と出会った男の子が、その怒りを静めようと豊崎の街を案内するうちに、道真が男の子の優しさや街の人の笑顔に癒やされ、人間に

戻る物語を創作。156年生がグループに分かれ、19場面を描いた。2人が豊崎神社の夏祭りや天神祭を巡ることから、祭りの写真や平安時代の装束が描かれた文献などを参考にした。田島さんは「絵本はめくる芸術。登場人物の心情が伝わるよう生き生きと描いて」と助言。児童は下書きをせずに、模造紙に直接、絵筆を走らせた。

約2か月半かけて完成させた絵本に、6年の福本万葉さん(12)は「のびのび描けた」とにっこり。倉沢保孝校長は「創立100周年を機に学校の財産が一つ増えた」と話していた。

ネット寄付 目標100万円

名板に「太閤なにわの夢募金応援団vol.3」と掲示し、芳名に全員の名前を記載。また、度度2万円以上寄付した

京区)で開かれて
会「フェルメール